



学校だより

10月号 (第194号)

令和5年9月29日発行
横浜市立並木中央小学校
学校長 齋藤 由美子

さくりんルームの取組

校長 齋藤 由美子

舟だまりから見える広く高い空。季節が夏から秋に移ったことを感じます。ようやく暑さを気にせず、校庭での活動ができるようになってきました。10月21日に予定されている中央小カップ2023に向け、本格的な練習がスタートしています。

さて、今年度4月から校長室と保健室の間の教室を使って、「さくりんルーム」がスタートしました。この教室には、自分のペースで登校したり勉強したりすることで、安心して自分らしさを発揮しようとする子どもたちが通っています。個々の課題にじっくり取り組んだり、時にゆったりした時間を過ごしたり、その子、その子のペースを大切にしながら学んでいます。「去年より、登校日数が増えた。さくりんルームで、安心して学習している。」ということを知ると、嬉しくなります。保護者の方からも、お子さんの変化を喜ぶ声を聞くことができ、少しずつ手ごたえを感じています。

今は、多様性の時代と言われると同時に、教育の世界では、「個別最適な学び」というキーワードが出てきました。一人一人が、自分のめあてに向かって、学び方を選び、時に学びの場も変えて自己実現に向かって取り組んでいくことです。本校は、国語科を中心に、この視点での授業改善に取り組んでいます。例えば、社会科の授業で、商店街について学習をし、その発展として、国語科の学習でパンフレット作りをする場合…皆で同じ時間に一齐に店の工夫や店のいち押しを書き進め、次の時間に一齐に互いの文章を見合うという、全斉一斉の学習形態から、必要があれば書き続け、必要があれば友だちに読んでもらって意見を聞く…のような、個のニーズ、必然性を大切に授業の形に挑戦中です。そこで大切なことは、子どもたちが、自分の課題やめあてを明確にもっていることです。そして強い目的意識、相手意識をもつことができれば、子どもは、自ら学びを切り拓いていく！教師陣は、そう信じて取り組んでいます。

さくりんルームの取組が、そこを利用する子どもの学ぶ意欲の後押しとなり、めあてをもって自分らしく生き抜く力の一助となることを願っています。

休み時間には、「紅組、勝つぞ!」「白組、勝つぞ!」と、応援団の子どもたちの声が響きます。中央小カップも、どうぞご期待ください。今月も保護者・地域の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。